那珂市議会　原子力安全対策常任委員会記録

開催日時　令和８年９月18日（金）午前10時

開催場所　那珂市議会全員協議会室

出席委員　委 員 長　渡邊　勝巳　　副委員長　花島　　進

委　　員　木野　広宣　　委　　員　寺門　　厚

委　　員　寺門　　勲　　委　　員　榊原　一和

欠席委員　なし

職務のため出席した者の職氏名

議　　長　大和田和男　　事務局長　横山　明子

次　　長　海野　直人　　主　　査　渡邊　荘一

会議事件説明のため出席した者の職氏名

なし

会議に付した事件

（１）視察について

（２）勉強会について

（３）市民の意見を聴く会について

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午前10時00分）

委員長　おはようございます。

昨日は非常に青空のいい天気だったんですが、今日はどんよりとして、また雨が降るのかなあと憂鬱な気分になるような日々になっております。

また、シルバーウイークが明日から始まるんですが、台風の予想が出ております。これまで長い雨が続いておりましたので、水が地面に染み込まないような状態になっております。内水氾濫も起こるのかなと心配になるところです。

また、台風の影響といいますと、今、米の収穫時期になっております。非常に農家さんに影響が出ているのかなと思います。これ以上の影響が広がらないよう、切に望むところです。

また、台風といえば、災害の可能性があります。皆様早めに災害の対応をしていただきまして、準備等をしていただいて、極力被害のないようにしていただければと思います。

ご連絡いたします。会議は公開しており、傍聴可能とします。また、会議の映像を庁舎内のテレビに放送します。会議内での発言は必ずマイクを使用し、質疑答弁の際は簡潔明瞭にお願いいたします。

また、携帯電話をお持ちの方、電源をお切りいただくか、マナーモードにするなどのご配慮をお願いいたします。

ただいまの出席委員は６名であります。欠席委員はございません。定足数に達しておりますので、これより原子力安全対策常任委員会を開会いたします。

職務のため、議長、議会事務局職員が出席しております。

ここで議長よりご挨拶をお願いいたします。

議長　改めましておはようございます。本日は開会中の原子力安全対策常任委員会にご参集を賜りまして誠にありがとうございます。

今日は執行部案件がないので、寂しいというわけではございませんけども、東海原電の約２年間の工事の延長というところと、また、これは原子力のこの常任委員会の所管かどうかは別ですけども、隣町では国レベルの廃棄物の文献調査ということで、非常に報道等で賑わっておりますが、我々近隣市町村としては、しっかりとした正しい情報をとりながら、常陸大宮市などの動向をしっかりと注視していくというところだと思います。

引き続き、皆様にも理解とご協力賜りたいと思います。

ということで早速でございますが渡邊委員長のもとで、慎重審議をお願い申し上げまして簡単でございますがご挨拶に代えさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いします。

委員長　ありがとうございました。本委員会の会議事件はサイドブックスに掲載されている会議次第のとおりでございます。

これより議事に入ります。

（１）視察研修についてを議題といたします。

まず、過日、７月７日、原子力工学研究所と日本原電。８月27日に東京電力福島第一原子力発電所の視察研修を実施いたしました。その振り返りを行いたいと思います。

委員の皆様から１人ずつ感想やご意見をお願いいたします。

木野委員からお願いいたします。

木野委員　もう２か月前になりますので結構、記憶が飛んでいますけど、今回のこの大洗の原子力は、私も議員なって初めて視察をさせていただきました。今までに行ったことなかったものですからいろんなお話を聞いて、大洗の場合はこういうふうにやっているんだっていうのはかなり勉強になりました。

また、福島に関しましては、何回か行っておりますけども、視察コースが変わったことがすごく印象的で、前は入れた１号機とか２号機のところは、今回は入れなくなったということで、ずいぶん状況が変わってきているんだと。また、たまたま同じ見学で高校生がいらっしゃいましたので、高校生の斬新的な意見を聞かせていただいて、本当によかったと思っております。

また機会がありましたらば、そういうところも視察させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。以上です。

寺門勲委員　７月７日の大洗原子力工学研究所と日本原子力発電株式会社の視察についての意

見を述べさせていただきます。

まず、７月７日のほうから申し上げますと、脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーの導入拡大とともに、水素製造を始めとする新たなエネルギー技術の研究開発も重要であると感じてきました。一方、原子力に関する研究開発では、安全性の確保と、情報公開、また市民への丁寧な説明を大前提としなければならないという思いを感じてまいりました。

続きまして８月27日の東京電力福島第一原子力発電所の視察についてでございますが、処理水、海洋放水について様々な意見があるかと思いますが、廃炉や処理水の海洋放出が安全かつ着実に進捗しているということが分かりました。そして、着実に廃炉作業が進んでいることを拝見いたしまして、原発事故の教訓を忘れないためにも、今回視察できたことが大変よかったと感じてきました。

以上、２点でございます。

榊原委員　７月７日の大洗と日本原電、大洗は初めてですけれども日本原電は３回目ということで見させていただきました。本当に原電に関しては、着々と、というか、もう日本の名だたる企業が入って、いろんな工事を進めているっていうのが３回目で、もう進化しているというのはよく分かりました。

ただやっぱりエネルギー問題を考えたときに、本当に化石燃料、安全性の話はちょっと置いておきまして、やはり中東問題であったり、いろんな世界情勢の中で非常に不安定なところがある。日本も技術立国ですから、エネルギー問題っていうのを真摯にとらえなくてはならないっていう、その側面として、もちろん危険性を秘めた原子力というのもありますので、ここをどう議論していくのか、我々考えていくのかっていうところを考えなきゃならないのかなっていうふうに思いました。

８月27日の福島第一に関しては、これも廃炉作業っていうことで、2011年の地震の処理という形になっていますので、着々と処理のほうが進んでいるのを確認しましたので、非常にいい機会だったなというふうに思っております。以上です。

寺門厚委員　７月７日のほうは、大洗の原子力工学研究所、私も初めて訪問をしましたけれども、実際、道路を通るたびに、何をやっているんだろうなっていうのは、常々思ってはいたんですけれども、高温ガスということで、次世代のエネルギーの開発研究中ということで、しかも実験では、安全性も確認されているということで、今後、社会実装をして、実際に稼働をさせてというところに、入っていくんだろうなというふうに思いました。

今、次の再生エネルギーといいますか、自然環境に優しいエネルギーの開発ということなので、今後、最先端の産業となると思いますので、30年代にその実験炉ということも聞きましたし、そうしますと実際に使えるのが目に見えているということなので、当市としてもそういった産業面のところで何か関わりができるのかなというのを今後検討していかなくちゃいけないなというふうに思いました。

東海第二については、安全対策工事ということで、防潮堤の強度とか、今一生懸命やっていますけれども、現場を見て何か雑然としていて、出来上がった時点で安全対策を実施したその安全性っていうのはどう確証されるのかなと、我々は確証していかなくちゃいけないので、そこを該当の自治体もそうですけれども、規制委員会始めしっかりと見てもらいたいなというふうに思いました。

その上で、再稼働という話が出てきますので、それについては安全性の確認の上、あと広域連携から、実効性の担保ということで、これをきちんと確認しなきゃいけないなというふうに思いました。

福島第一につきましては、廃炉作業が進んでいるというふうに思いました。先ほどの大洗工学研究所で、デブリの調査をして、廃炉に対して技術やらシステムをいろいろ考え研究しているということもありまして、今後、やはり国内においても廃炉のシステムっていうのは産業化できるのかなというふうに思いますので、そのような部分に期待したいというふうに思っています。

それともう一つ気がついたのは、どうも復興も周辺自治体は、本当にその復興の途中なんですけれど、やっぱり人が往来をして賑わいがないと元に戻ってないという状況になりますので、そこを今後、東電としてもきちんと最後まで見届けるというか支援をしていただきたいなというのを強く思いました。我々はそれをきちんと監視していかなきゃいけないというふうに思いました。以上です。

副委員長　まず、大洗のＨＴＴＲですけど私は初めてじゃないので、皆さんと感想違うと思うんですけど。実は私、原研でかなり経営陣から睨まれたきっかけは、このＨＴＴＲの開発現場で、最初は多目的高温ガス炉といったんですが、ちょっと自分の意見というよりは人の意見を公にしたから、大変な目に遭ったんですけど、それはともかくとして、結構、真面目に研究していると思いました。特に現場の説明の方ですね、私の知り合いも実は何人かあそこにいまだに働いています。それで特に感想はないんだけど、やっぱりこのようなところは、時々見に行かないといけないなと思います。

日本原電については、最近、日本原電と今、やり取りをしていまして、技術的に結構危なっかしいと実は思っています。ただ、見かけ上は、工事等は一生懸命やっている感じでしたね。ああいうものっていうのは、見た目で分かるものと、見た目では分からないものがあるんですよね。だから、両方大事だと思うんですけど、私としては、ある程度技術的なことが分かるものとして、認めないことを中心に考えていきたいと思っています。

それから福島第一原発事故なんですが、周辺を見に行ったことが何度もありまして、東電の何て言ったっけあれ。正式な名前忘れましたが、展示館（廃炉資料館）を見ましたよね。あれ見ても未だに、福島第一事故の教訓をきちっと捉えていないと思いました。要するに、私が思っているのは、そもそも我々が今の科学技術の時点で、地震とか津波にどのくらいまで予測する力があるのかということなんですよね。それは、その限界が本当に問

題外のところにあるんだっていうことを、どうも彼らは分かってないっていうか、分からないふりをしていて、いまだに狭い範囲で、手先で対処できることで、なんとかやりたいと思っている感じでした。

廃炉については当初予想したとおり、すごく遅いなと思いました。もともと国なりが言ったのは、もっとロードマップとか書いてね。どうせそれもうまく行くわけじゃないと思っていたんですけど、やはりそうだなっていう感じですね。

だから、ひとたび事故を起こしたら、とんでもない手間がかかるというのは率直な印象です。それを確認したって感じですね。ちなみに、事故を起こしてない、大きな事故を起こしてない、原研でやっていたＪＰＤＲっていう発電用テスト原子炉なんですけど、それはもう更地になっているんですよね。それはそれで手間がかかったけれども、福島第一みたいなとんでもない手間にはなってないです。

そういうことで新たに何か考えたっていうことではないんですけども、時々見に行かなきゃいけないなとは思いました。以上です。

委員長　皆様方からご意見を頂きまして、やはり大洗の研究所につきましては確かに議会のほうでは初めて行ったのではないかなと思っております。なかなか近い場所だったんですけども、施設見学をする、話を聞くという機会がなかった。それを今回初めてできたということは非常によろしかったことなのかなというふうに思っております。

また、通常我々が原子力ってどうしても発電所というところを多く見に行ってきましたので、いろいろ安全性を求めた研究が新たなものも行われているということに触れたことは非常によかったのかなと思います。今後、そういうような新しい技術については、引き続き、当委員会のほうでも確認していきたいというふうに思っております。

あと、東海につきましてやはりいろいろなご意見がございました。工事を進めている理由というのは、十分理解できておりますし、あとは工期が２年ほど延びたということですので、引き続き安全を確認しつつ作業も進めていただきたいなと、その上での話だと思いますので、それはそれでまた当委員会のほうでも注視していきたいという形だと思います。

最後、福島ですが、こちらも廃炉は、確実に進んでいると思います、時間的なスケジュールは別にしまして。ただ、いろいろな段階があると思いますので、この辺がデブリなんかの調査というのが大洗のほうでやっているということもありましたので、その辺も含めて、確認できればなと思います。福島は、本当に大きな災害でしたので、それが繰り返されないようにしていきたいということで、我々のほうも安全のほうが確認できればなと思います。

これ以外に何かお伝えしたいことありますか。

副委員長　私たちが見に行くのはできた施設とか、そういうなんていうか目につくものなんですけど、実は、大洗にしろ、東海の原研にしろ、基礎研究部門ですよね。大洗について

は、皆さんも知っている常陽がありますけど、そのほかに、大きなホットラボって、結構強い放射能を扱う施設とかありまして、そういう意味で原子力の基礎を支えられているんです。そういうのも見学する機会もできればあったらいいかなと思います。

議会ではなくても、何かの折に、よろしくご検討ください。以上です。

委員長　ほかにありませんか。

（なし）

委員長　それでは次の議題に進みたいと思います。

次は本年３月に、栃木県日光市及び塩谷町と原子力災害広域避難計画に関する協定を締結いたしました。協定書の写しにつきましては、資料のとおりとなります。

今後、日光市と塩谷町の現地視察を実施する予定です。なお日程につきましては、別紙の内容、11月４日に行うという形で調整中でございます。

今回の視察の目的ですが、まず広域避難の受け入れをしていただくことに対しまして感謝の意をお伝えすることとなります。

なお、避難計画につきましては、現在のところできていないということですので、計画に関するお話は聞くことができないとのことです。

また、先方に説明をお願いしているのは、日光市、塩谷町の概要、地理的要因、環境、交通状況、その他避難所の現況などとなっております。これ以外で何か先方にお聞きしたい点があれば、この場で確認して、先方に伝えていきたいと思いますが、何かご意見ございますか。

なかなかすぐにというのも難しいと思いますので、改めてラインワークスで事務局のほうからお知らせしていただきたいと思います。それに書き込みをいただくか、また事務局のほうにメールのほうでお伝え頂ければなと思います。

という形で事務局のほうでよろしいですか。

主査　事務局のほうで、その質問等があればお受けいたします。その際に、日光市の資料と塩谷町の概要の資料をホームページからとりましたので、サイドブックスに貼り付けます。日光市の統計、日光市の状況とか、日光市の避難所と塩谷町の避難所、これは普通の災害の避難所だと思いますが、その資料がありますので、それも添付させていただきます。

委員長　そのような形で資料のほう配付させていただきます。また締切りの日程につきましても、議会事務局のほうであわせて通知を差し上げるような形をとりたいと思います。この件につきましてはよろしいでしょうか。

寺門勲委員　すみません。大変申し訳ございませんが、この日、現在11月４日の日程で、調整を進めているところでということでございますが、大変申しございませんが、私以前から、市町村アカデミーの研修のほうを議会事務局を通して申し込んでいるんです。できれば市町村アカデミーのほうに、出席させていただきたいと思って今考えているんですけども。

委員長　承知いたしました。この日程につきましては先方からも日程調整の結果、得られた日程ですのでちょっとこちらは変更できませんので、申し訳ありません。寺門委員の欠席ということで対応させていただきます。ありがとうございます。

それでは続きましてそのほかの視察等につきましてですけども、例年ですと原子力発電所等視察のほうを行っております。昨年は宮城県の女川原発。その前は福井県の大飯原発ということで、いずれも再稼働をしているところを視察に行っております。

もしご提案等あればと思うんですが、東海のほうの２年間間違いなく延期しておりますので、その辺も含めてご検討いただければと思います。

もしあれでしたらばまたちょっとご検討いただきまして、ご連絡等、案をいただければと思いますので、よろしいですか。

（はい）

委員長　そのような形で進めさせていただきたいと思います。

それでは（２）勉強会についてをテーマにしたいと思います。例年原子力関係の勉強会を実施しておりますが、本年度の勉強会のテーマについてどのようなものがよろしいかお伺いしたいと思います。何かご意見ございますか。

副委員長　原発関係の勉強会を毎回やっているように、容認派と反対派、それぞれから考えていきたいと思います。

それはそれでいいんですが、常陸大宮市の例の問題もあるので、その地層処分とかどういう事かとか、そういうのもやっぱり加えてもいいと思うんですよね。

私の考えでは、資源エネルギーの方、あるいは資源エネルギー庁が推薦してくる方のお話を聞いて勉強するのと、反対の意見。文献調査っていうよりは、ああいうところに処分場をつくることに対する反対意見の方、それぞれ話を聞いてみたいと思っています。

ということであと１年くらいの間に、四つぐらいはやりたいなと思うんですが、まずは今、話題の常陸大宮市の件に関連していることをやりたいと思います。

委員長　はい、ほかにご意見ございますか。

寺門勲委員　花島副委員長のご意見、確かにそういった意見を聞くのもいいと思いますけど、何かこう、常陸大宮市がどうなるか分からないじゃないですか。ですから、そういったこと等で、先行して、聞くタイミングなのかどうかも含めてちょっとご検討いただいたほうがいいのかなと、今思ったんですけども。

副委員長　常陸大宮市が文献調査を受けるかどうかは別としても、要するに原子力をやる限りでは、処分のことを考えなきゃいけないっていうか、後始末ですかね。そういう意味では、いいきっかけになると思うんです。だから、常陸大宮市がどうかというよりは、全体のことも含めた中でもその処分の問題を勉強するってことを中心にして、いろんなことを含める形で、進めたらいいかなと思います。

あんまり知らないでしょうし、もう原子力に関しては僕も部分的にしか知らないんで、

だからその点はあんまり懸念する必要はないと思います。

基礎知識として、常陸大宮市でこうなったとか、どこかでこうなったか、こういうふうに決まったからといって、慌ててやるよりは、事前に概要とか、賛成反対それぞれ意見を聞いていたほうがいいと私は思うんで、そういう提案です。

委員長　ほかにご意見ございますか。

寺門厚委員　私も、副委員長の意見に賛成をいたします。というのはいずれにしても、最終的に原子力発電で出たごみをどうするっていうのは、最終的に何も決まってない状態なので、国の考えもそうですし、実際の実務、技術、それからシステムも出来上がってないということなので、やっぱりそれをきちんと、どうなってどういうふうに処理をする方向になるのかっていうのを聞いて勉強しておきたいなというふうに思います。

特に大洗なんかでも、福島第一のデブリを調査してというところもやっています。

それからまた、国では今後、国の産業としてその廃炉産業というのも、日本として必要なのかなというのは、考えるべきかなと、私もそういう考えなので、それは早いうちにきちんと聞いておきたいと思います。以上です。

木野委員　副委員長がおっしゃられましたけども、現状、私たちは知らないのが本音であって、意外と初めて常陸大宮市がこういう話になったときに、ほかのところはこういう状況なんですっていう部分がありますから、那珂市の場合は、この常任委員会があるので、常任委員会としてどういうふうに対応するかって考えると、できればその勉強会にそのテーマでもいいんじゃないかっていうふうに私は思います。

榊原委員　副委員長のおっしゃるとおりで、せっかく出てきた機会という言い方はおかしいのかもしれない。でもやっぱり学ぶべきものは学んで、どう判断するかまたその次の話としても、やっぱり基礎知識的なところを学ぶ機会、チャンスが訪れたという考え方で、私も賛成です。

寺門勲委員　意見を聞くとか、そういうのじゃなくて、近隣の自治体に配慮した対応を今後していくべきじゃないかという意味で申し上げたところであって、そういう意味で言っていることで、やらないでほしいとか、やってほしいとか、という意味ではないです。

副委員長　私の意図は、基本的に、常陸大宮市がやるかやらないかという話じゃなくて、どういうものであるか。国はどういうふうに考えているか、反対派が何を考えているか、意見を聞かないわけじゃないんだけど。ただ、常陸大宮市についてどうこうと、常陸大宮市に特に突っ込む話ではないと思っています。現にどうなるかわからないですけど。以上です。

委員長　それでは当委員会としましては、当然賛否をとるものではなくフラットな考えとして、あくまでもその知識を得るという勉強のための勉強会ですからね。それを行うということで、核廃棄物の処理の部分についての勉強会を実施していくというような形でいきたいと思います。

それと並行して、通常の勉強会と３、４回開催するようになりますので、スケジュール等の都合もあるでしょうし、そもそもこれらを受けていただく方もありますので、これは事務局のほうと、調整をしまして、講師の方、日程と、それを全部含めた上でまた改めてご提案させていただきたいと思います。

よろしいですか。事務局よろしいでしょうか。

ということで私委員長と副委員長と相談しつつ、事務局と相談しながらやってきたいと思います。

委員長　続きまして、３番になります。市民の意見を聴く会についてでございます。今年度の実施内容について皆様方のご意見をお聞きしたいと思います。

木野委員　今回また市民の意見を聞くということで、このあいだ福島第一に行ったときに思ったのが、一緒に高校生がこられていて、高校生の意見を聞いて、いい意見だなっていうのもありましたし、そのあと午後からは大学の学生たちも来ていたっていう部分もあるので、また那珂市におきましては、以前、総務生活が高校生と意見を聞く機会がありまして、教育厚生でも寺門厚委員長のときに、市民の意見交換ということで聞いたので、一つ提案ですけども高校生の意見を聞いてみたいというふうに思っております。以上です。

寺門厚委員　高校生は一緒なんですけれども、もう少し幅を広げて大学生まで広げてはどうでしょうかということで考えたわけなんですけど、この間、福島の原子力資料館におきましても、あそこもすごい予約で、結構、高校生もそうだし大学生も来ていますし、やっぱり関心があるんだろうなということなので、原子力関係全般について、いろいろ意見を聞くのはいいことだなと。できれば大学生の方も、会をわける、一緒でもいいかとは思うんですが、やってみたらどうでしょうかというところです。

榊原委員　寺門厚委員の今おっしゃられたことで、高校生になってくると、このあいだの高校生は、そこに興味がある方が多分いらっしゃったと思うんですよね。フラットに多分一般的な市内の高校生であるとなると、なかなか我々だって正直、原子力の知識ってものすごく疎いし、ここにいるから勉強しているっていうところもあるんで、逆に言ったらその大学生でも原子力に対しての知識を持った学生とちょっと話してみたいなという気持ちは正直言ってあります。茨大に今、調べたんですけど原子力規制人材育成事業っていうのを持っていて、そういうところもありますのでそういう方のほうが多分、意見としては物すごい意見が出てくるんじゃないかなというふうには思いますね。

委員長　ありがとうございます。確かに福島に視察に行った際には、高校生と同席させてもらいまして、非常にいろんな意見いただけたと思います。ただ、私が思うには、高校生、知識が、あろうがなかろうが、やっぱりない人に原子力に関心を持ってもらいたいなというところがある。そういうきっかけがあればなと思うんです。であれば、やはり高校生は高校生で、その専門的知識を持っている方は本当に少ないと思うんですけれども、それがゆえにやはり学んでほしいし、ちゃんとした知識を持って考えていただきたいなというとこ

ろもありますので、高校生と話すことは非常によろしい話かなと思います。

大学生は大学生で、やはりそこは若い世代で話を聞きたいと思いますので、今いただきましたご意見を中心にちょっとアポ取りと、その辺をちょっと進めていきたいと思います。

よろしいでしょうかね。ほかに何かございますか。

（なし）

委員長　それでは本日の議題は全て終了いたしました。

以上で原子力安全対策常任委員会を閉会いたします。

皆様ご苦労さまでした。

閉会（午前10時53分）

令和８年10月23日

那珂市議会　原子力安全対策常任委員会委員長　渡邊　勝巳